

2027年3月期 第1四半期決算説明資料

株式会社ヤマウラ 東証プライム（証券コード：1780）

2026年8月6日



（本資料の取り扱いについて）

当社の経営目標および将来予測に関する情報は、当社が発表日現在において入手した情報に基づいています。これらの情報は、外部環境やその他の要因によって変化する可能性があり、目標や業績の達成を保証するものではありません。実際の業績は予測と異なる場合があるため、情報に過度に依存せず、投資判断は各自の責任で行うようお願い申し上げます。また、当社は新しい情報に基づいて、これらの将来予測を更新する義務を負うものではありません。

1 エグゼクティブサマリー

2 FY2026 第1四半期実績

3 FY2026 通期業績見通し

エグゼクティブサマリー

売上高は前年同期比2.15億円減の82.16億円、営業利益は同0.73億円減の7.53億円、経常利益は同0.61億円減の8.12億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は同0.16億円減の5.51億円で着地。

第1四半期は、前年同期比での減収減益幅は想定内。今後は予想より改善傾向で進捗の見通し。営業利益の減少は、株式報酬(BIP信託/ESOP信託)の計上によるもので、粗利は前年同期比で増加。

売上・利益計上は期中で偏る傾向もあるため、単四半期での判断ではなく、主力の建設事業を中心にさらなる競争力強化と収益基盤の充実を図りながら、通期計画の達成を目指す。

売上高

82.16 億円

前年同期比 △2.5%

営業利益

7.53 億円

前年同期比 △8.9%

経常利益

8.12 億円

前年同期比 △6.9%

親会社株主に帰属する
四半期純利益

5.51 億円

前年同期比 △2.8%

1

エグゼクティブサマリー

2

FY2026 第1四半期実績

3

FY2026 通期業績見通し

連結損益計算書

第1四半期は、わずかに減収ながら粗利が改善し、トップラインの変動に対しても案件採算の維持・改善が進む。販管費の増加は将来成長に向けた人的資本投資を計上。

(百万円)

	FY2025 1Q	FY2026 1Q	増 減
売上高	8,431	8,216	△215
売上原価	6,940	6,692	△248
売上総利益	1,490	1,524	34
販売費・一般管理費	663	770	107
営業利益	826	753	△73
営業外収益	48	62	14
営業外費用	2	3	1
経常利益	873	812	△61
特別損益	0	0	0
税金等調整前四半期純利益	873	812	△61
親会社株主に帰属する四半期純利益	567	551	△16

連結貸借対照表

売上債権の回収が進んだことで現預金が積み上がる。自己株式の取得により純資産が減少し、自己資本比率が低下。中期経営計画に沿ったBS管理を継続。資本効率および財務健全性のバランスを意識した経営に注力。

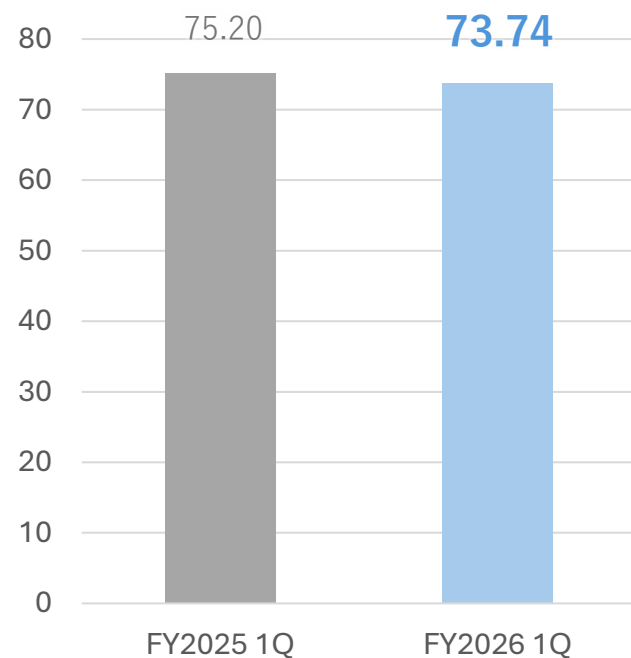
(百万円)

	FY2025	FY2026 1Q	増 減
流動資産	28,209	28,370	161
現金及び預金	8,839	9,579	740
固定資産	7,798	7,917	119
総資産	36,007	36,288	281
流動負債	9,739	10,229	490
固定負債	86	267	181
純資産	26,180	25,791	△389
自己資本比率	72.7%	71.1%	△1.6%

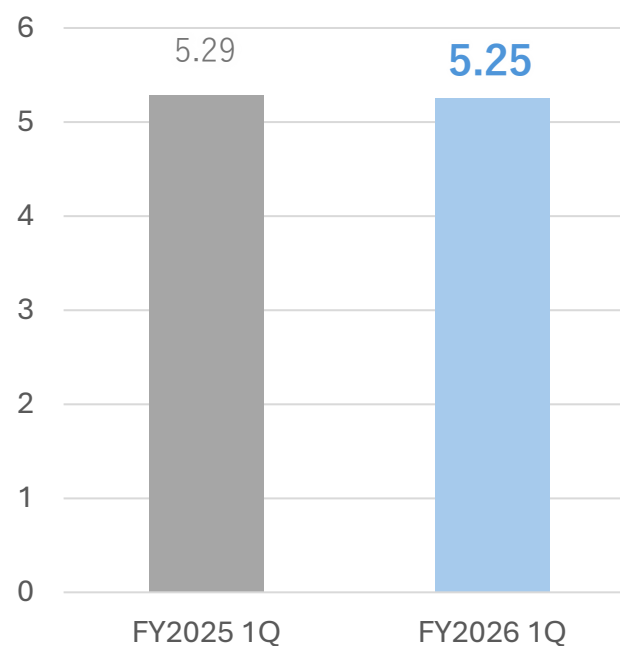
セグメント別 売上高(前年同期比)

主力の建設事業が前年同期比で微減となったものの想定内で進捗。水準としては引き続き高く収益基盤の中心。エンジニアリング事業は、ほぼ横ばいで推移するも、新規先での受注は好調のため、今後は上向きの予想。開発事業等は計上時期などが単四半期で一定の振れを伴う傾向。

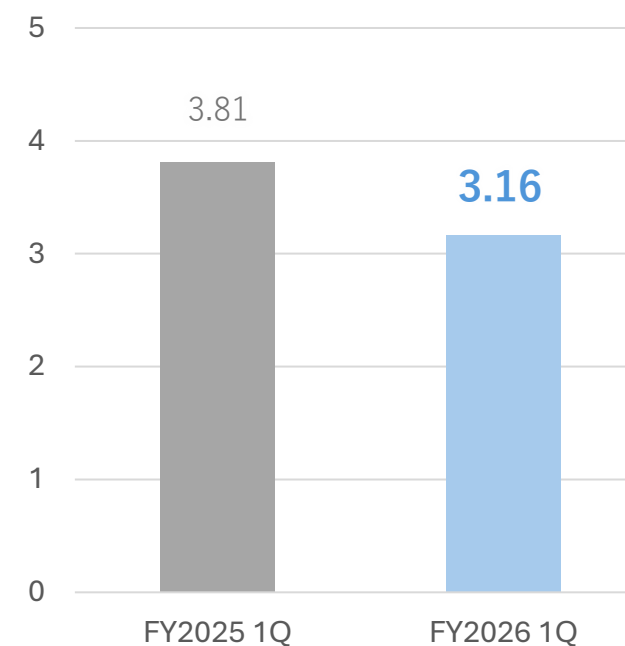
(億円)



建設事業



エンジニアリング事業



開発事業等

1 エグゼクティブサマリー

2 FY2026 第1四半期実績

3 FY2026 通期業績見通し

業績予想に対する進捗状況

提案力の強化と生産性を高めることにより利益改善の傾向だが、足元の経済情勢やコスト環境の変化を織り込み慎重な通期予想を継続。計画通り持続的安定的な成長を見込む。通期計画達成に向け、第2四半期以降の受注活動、売上進捗、利益確保に注力。

